

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果(平成24年度)の概要

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野(6/8)

	評価区分(*1)	総合評価 (IとIIの平均値にIIIを加味)	I 目標に向けた取組の進捗に関する評価	II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	III 現地調査時の指摘事項及び対応状況等(*2)	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
かがわ医療福祉総合特区(香川県)	正	A 4.5	B 4.4  進捗度 ・へき地薬局が取扱う院外処方せん枚数/月 101%  ・複合型サービス施設の整備 100% 等	B 3.7  財政支援等 ・ドクターコム活用促進事業(オーブナス育成、診療支援システム整備)等  地域独自の取組 ・複合型福祉サービス充実事業(独自に介護報酬を月額3,000円/人加算)	+0.4	<p>・住民ニーズに基づき明確に課題を設定(※1)している。また、対応も具体的に着実(※2)である。高く評価。</p> <p>・財政支援からの自立への道程を示す必要(※3)がある。また、ここまでICTを活用するのであれば、へき地薬局とともに「宅配便」や「ネット販売」との連携も考えてはどうか。</p> <p>※1: 島しょ部・へき地の住民や高齢者を含む全ての県民が、一定水準の医療や福祉が受けられるよう、へき地薬局開設や遠隔医療推進のためのオーブナス育成事業(※)などを実施。</p> <p>※ドクターコム(電子カルテ機能統合型テレビ会議システム)を通じた医師の指示のもとで、簡易な検査や必要な処置を実施する訪問看護師(オーブナス)を育成する事業。平成24年11月から1期生の研修を開始し、平成25年3月までに全課程を修了した。平成25年度中に2期生の研修を実施する予定。</p> <p>※2: 例)へき地薬局開設事業については、開設主体となるNPO法人の設立、入居施設の改修、薬局開設許可及び保険薬局指定を受けて、平成24年11月に開局。へき地の患者宅における調剤薬の交付については、規制緩和が措置されるまでの間、現行法でも可能な範囲で実施する等により、へき地薬局が取扱う院外処方せん枚数/月は、H24年度目標90枚/月に対し、実績91枚/月(進捗度101%)の水準で推移。</p> <p>※3: ドクターコム(電子カルテ機能統合型テレビ会議システム)に係るシステム改修費について、総合特区調整費を活用した財政支援を受けているが、特殊なハードを導入する場合、都度更新費用がかかり、国の財政支援への依存が継続しかねない。クラウドや汎用機器を利用し、ソフト更新のみで済むようなシステム設計を検討してはどうか。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

\*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。 \*2)「IIIについては、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。